

(参考資料)【ごみステーション排出実態調査】(調査結果)資料編

(1)結果の詳細

「燃やさないごみ」、「有害ごみ」、「ビン」、「大型ごみ」のごみについて、10 分類を基準にして分類作業を行いました。さらに、細分化した 23 分類について調査し、この結果を以下に示します。(分類項目については、調査概要・解析結果の p.4 表 6-1 分類項目一覧を参照ください)

1)-1 燃やさないごみ分類結果

燃やさないごみの調査結果について調査地域別の重量構成比を図 1-1 と表 1-1 に示します。

調査地域別の特徴は戸建地域②、集合住宅地域、農村地域の 3 地域で分別協力度が最も多く、その適正な排出割合はおよそ 90%以上で 89.03%~94.60%でした。その他、残りの戸建地域①、中心市街地域は 80%以上でそれぞれ 83.49%、84.06%でした。全地域の人口割合に応じた加重平均は 87.25%でした。

燃やさないごみ中の小型家電は、農村地域が最も多くその割合は 37.30%でした。戸建地域②、中心市街地域は 10%以上で 12.19%、14.19%でした。残りの戸建地域①、集合住宅地域は 5%以下でそれぞれ 4.29%、4.87%でした。全地域の人口割合に応じた加重平均は 9.71%でした。

5つの調査地域における分別協力度の比較を以下に示します。

- ・ 戸建地域①は、小型家電が少ないが燃やすごみが多く、有害ごみと紙・布類の混入がありました。
- ・ 戸建地域②は、小型家電と燃やすごみが多く排出されていました。
- ・ 集合住宅地域は、小型家電が少なく、燃やすごみが多く、有害ごみの混入がありました。
- ・ 中心市街地域は、小型家電と燃やすごみが多く、有害ごみと大型ごみの混入がありました。
- ・ 農村地域は、小型家電が多く、有害ごみと紙・布類の混入がありました。

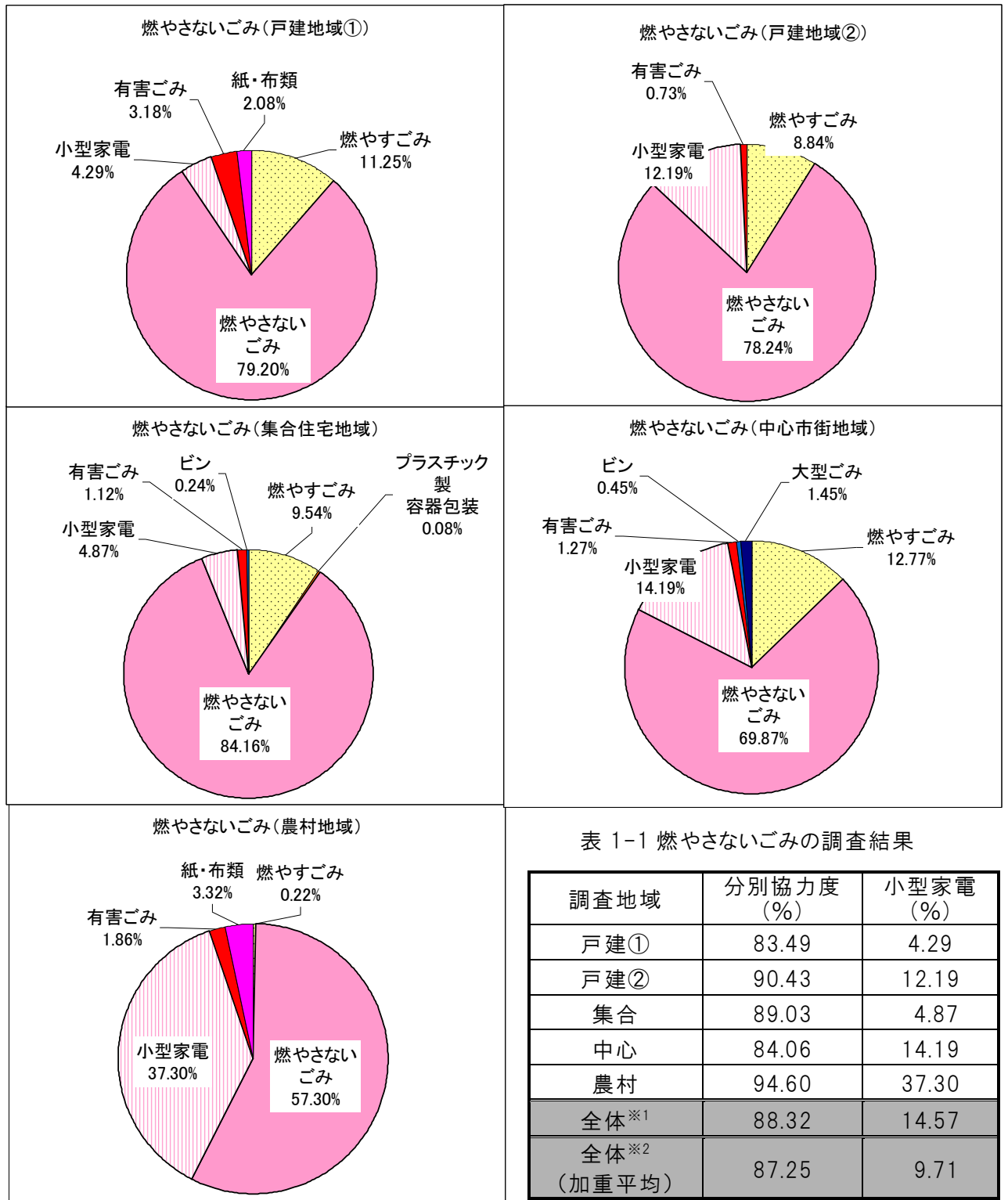


図 1-1 燃やさないごみの調査地域別の重量構成比(%)

※1:全体値は各地域の算術平均
 ※2:人口割合に応じた加重平均

1)-2 燃やさないごみ中の小型家電

燃やさないごみ中の小型家電について、調査地域別に図 1-2 と表 1-2 に示します。

燃やさないごみ中の小型家電は、地域によってばらつきがありますが、戸建地域①,②,中心市街地域においてリサイクル可能なものが約 50%排出されていました。集合住宅地域は約 9%, 農村地域は約 80%がリサイクル可能でした。ただし、農村地域は排出量自体が少ないため、リサイクル可能な小型家電がわずかでもあれば、その割合が大きくなります。全地域のリサイクル可能な小型家電の加重平均は 43.55%でした。

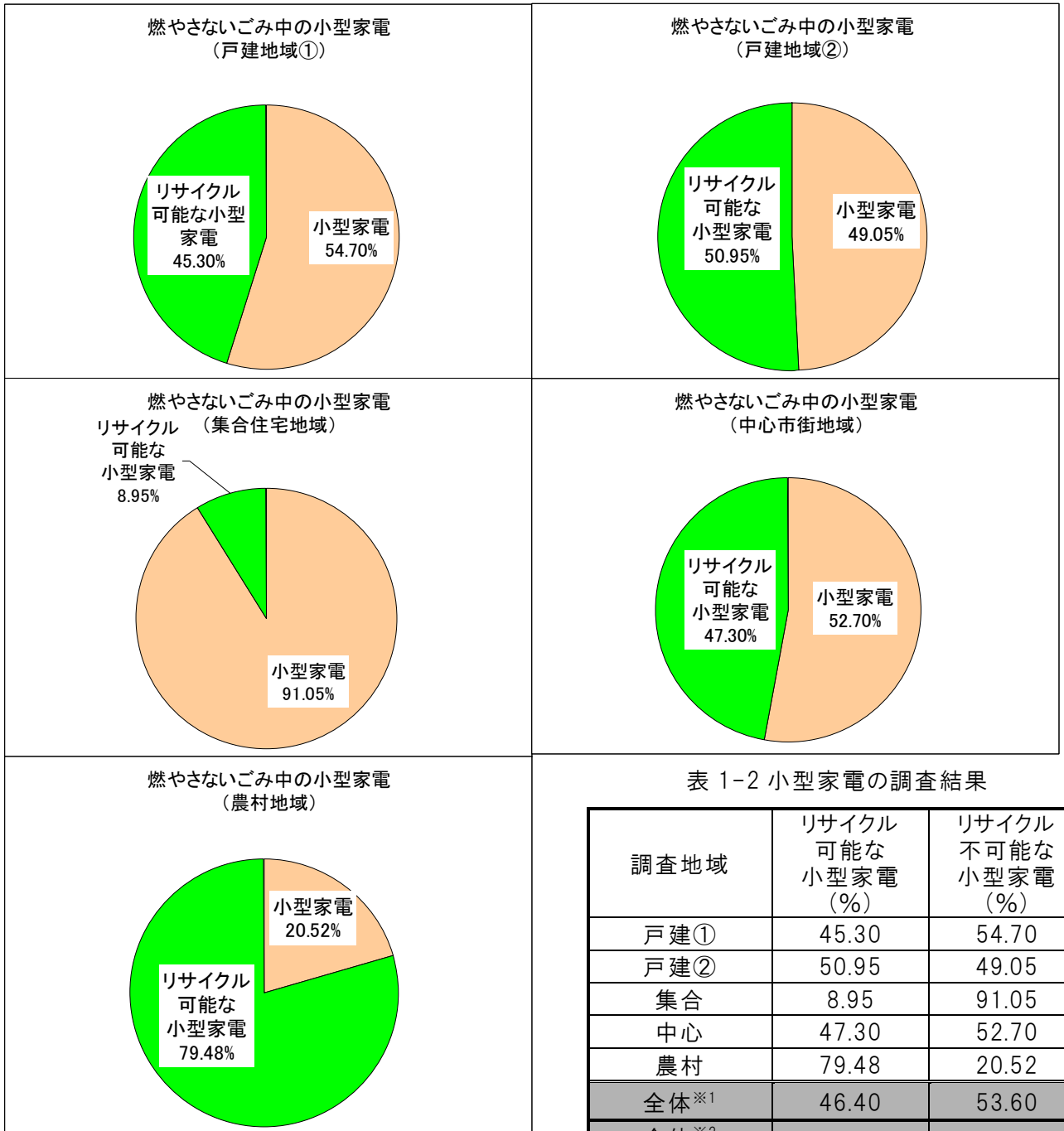


図 1-2 燃やさないごみ中の小型家電の重量構成比(%)

表 1-2 小型家電の調査結果

調査地域	リサイクル可能な小型家電 (%)	リサイクル不可能な小型家電 (%)
戸建①	45.30	54.70
戸建②	50.95	49.05
集合	8.95	91.05
中心	47.30	52.70
農村	79.48	20.52
全体※1	46.40	53.60
全体※2 (加重平均)	43.55	56.45

※1: 全体値は各地域の算術平均

※2: 人口割合に応じた加重平均

1)-3 有害ごみの特性

調査地域別の有害ごみの重量構成比を図 1-3 と表 1-3 に示します。

調査地域別の有害ごみは、戸建地域①、戸建地域②、中心市街地域の 3 地域で分別協力度が最も多くその排出割合は 90%以上で 92.62%～95.39%でした。残りの集合住宅地域は 86.86%でした。全地域の人口割合に応じた加重平均は 93.34%でした。

調査地域別の特徴を以下に比較しました。

- ・ 戸建地域①は、乾電池がおよそ半数の約 51%、蛍光灯が約 42%、燃やさないごみの混入が約 6%ありました。
- ・ 戸建地域②は、乾電池の割合が大きく約 75%ありました。残りは蛍光灯が約 20%、燃やすごみとプラスチック製容器包装の混入がそれぞれ約 2～3%ありました。
- ・ 集合住宅地域は、乾電池が約 58%、蛍光灯が約 29%であった。燃やさないごみの混入が約 10%と他地域よりも大きく、燃やすごみとその他(ボタン電池、充電電池)の混入もそれぞれ約 2%ありました。
- ・ 中心市街地域は、乾電池が約 65%、蛍光灯が約 30%でした。燃やさないごみの混入が約 4%でした。
- ・ 上記の調査地域で有害ごみは乾電池と蛍光灯であり、水銀式体温計は排出されませんでした。
- ・ 農村地域の有害ごみは調査日に排出が無かったため、今回の調査は実施していません。

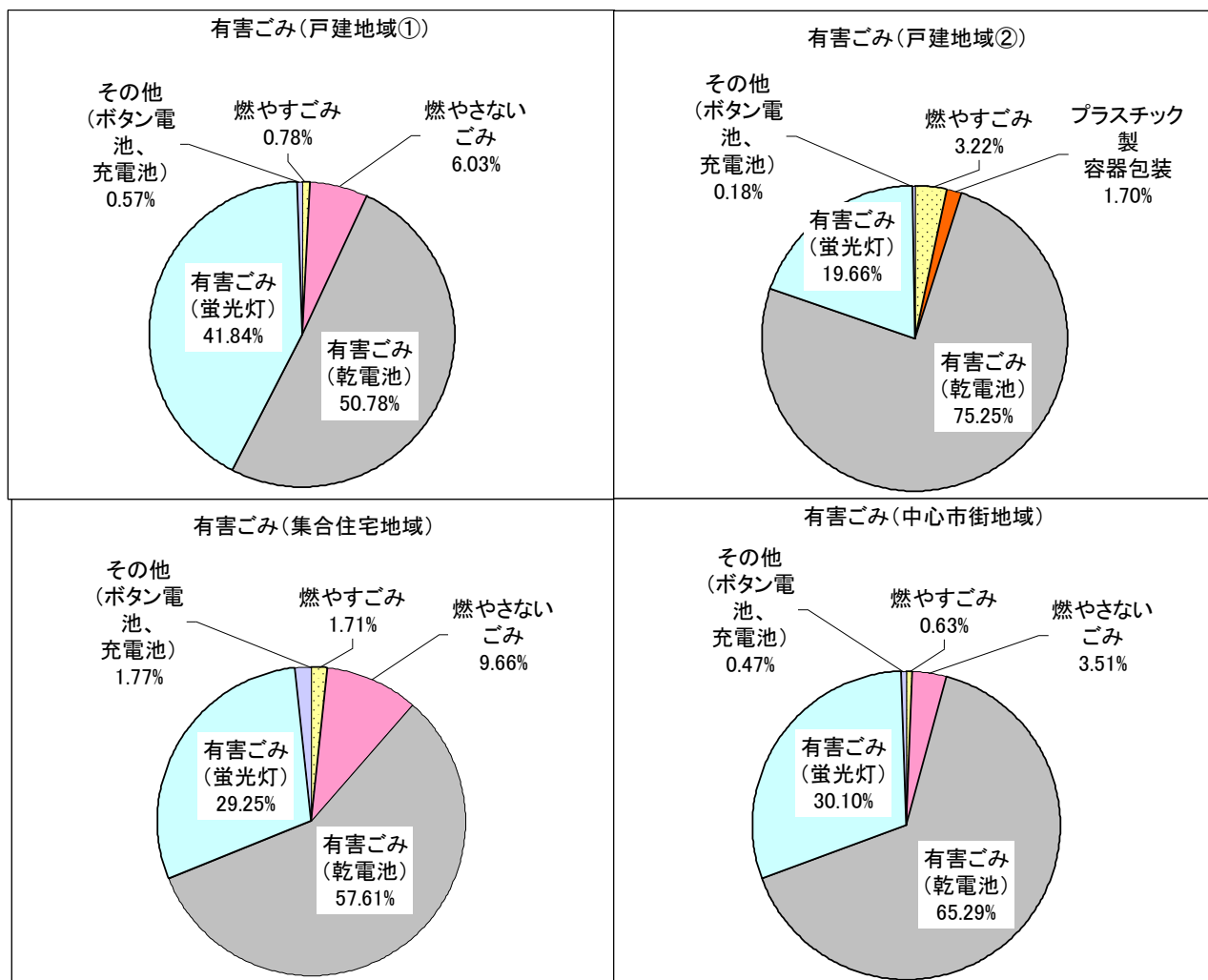


図 1-3 有害ごみの調査地域別の重量構成比(%)

表 1-3 有害ごみの調査結果

調査地域	分別協力度 (%)
戸建①	92.62
戸建②	94.91
集合	86.86
中心	95.39
農村	—
全体 ^{※1}	92.45
全体 ^{※2} (加重平均)	93.34

※1: 全体値は各地域の算術平均

※2: 人口割合に応じた加重平均

1)-4 ビンの特性(調査地域別)

戸建地域①のビンの重量構成比を図 1-4 に示します。

戸建地域①は、ビンの色別に無色が 94.19%、茶色が 90.74%、その他の色が 100.00%でした。

この地域の特徴は、無色はその他の色が約 5%と燃やさないごみが約 1%混入していました。茶色はその他の色が約 9%混入していました。

図 1-4 右下のグラフより、ビン全体を見ると、適正排出はリターナブルビンを含め 93.80%、不適正(色違い)が 5.58%、不適正(ごみ違い)が 0.62%でした。資源化の観点からみたリターナブルびんの排出割合は全体の 6.56%でした。

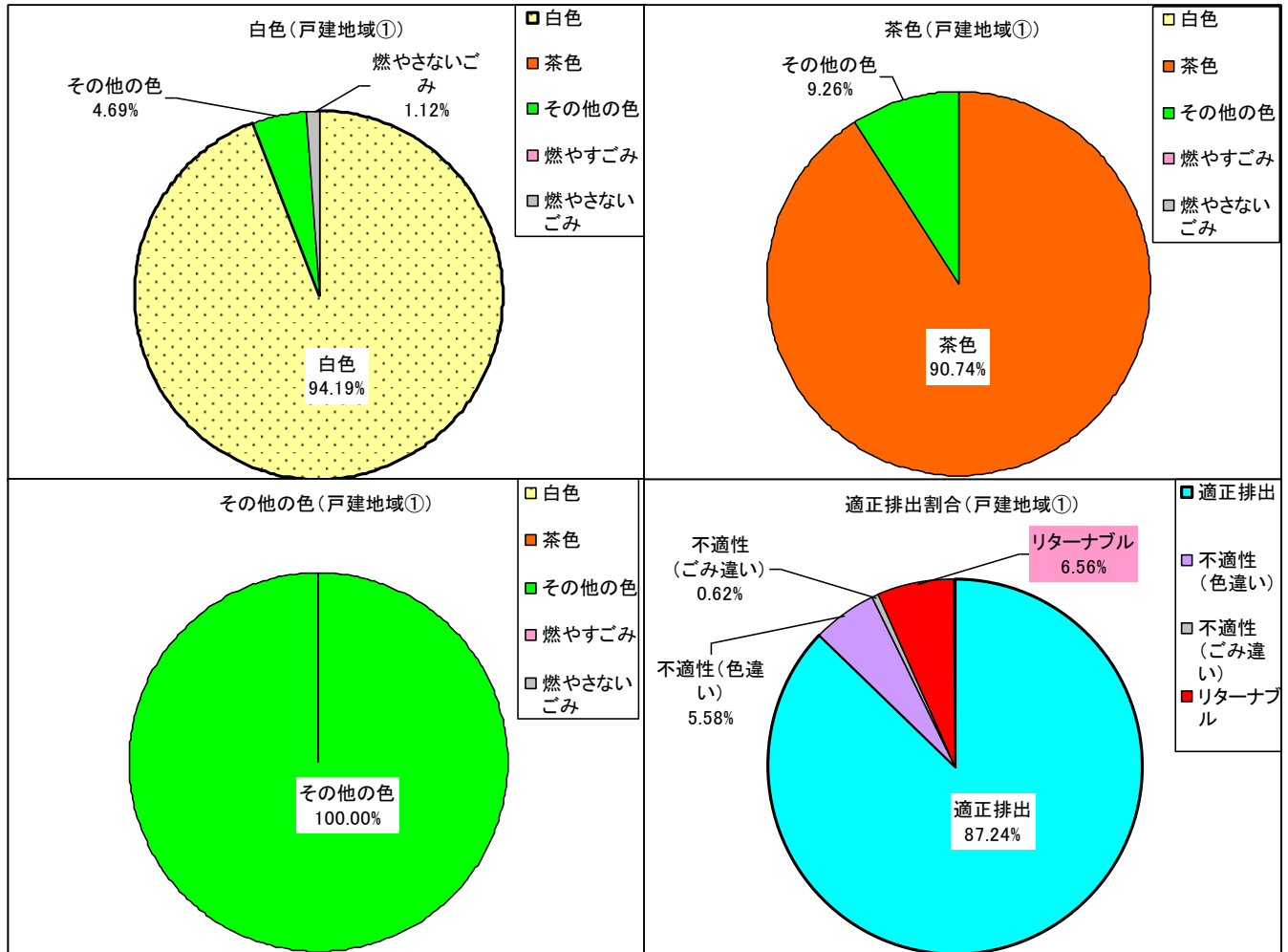


図 1-4 ビンの調査地域別の重量構成比(%) - 戸建地域①

戸建地域②のビンの重量構成比を図 1-5 に示します。

戸建地域②は、ビンの色別に無色が 99.92%、茶色が 96.63%、その他の色が 100.00%でした。

この地域の特徴は、無色とその他の色はほぼ 100%適正に分別されていました。茶色は無色とその他の色がそれぞれ約 2%混入していました。

図 1-5 右下のグラフより、ビン全体で見ると、リターナブルビンを含めた適正排出は、98.79%、不適正(色違い)が 1.18%、不適正(ごみ違い)が 0.04%でした。資源化の観点からみたリターナブルびんの排出割合は全体の 4.65%でした。

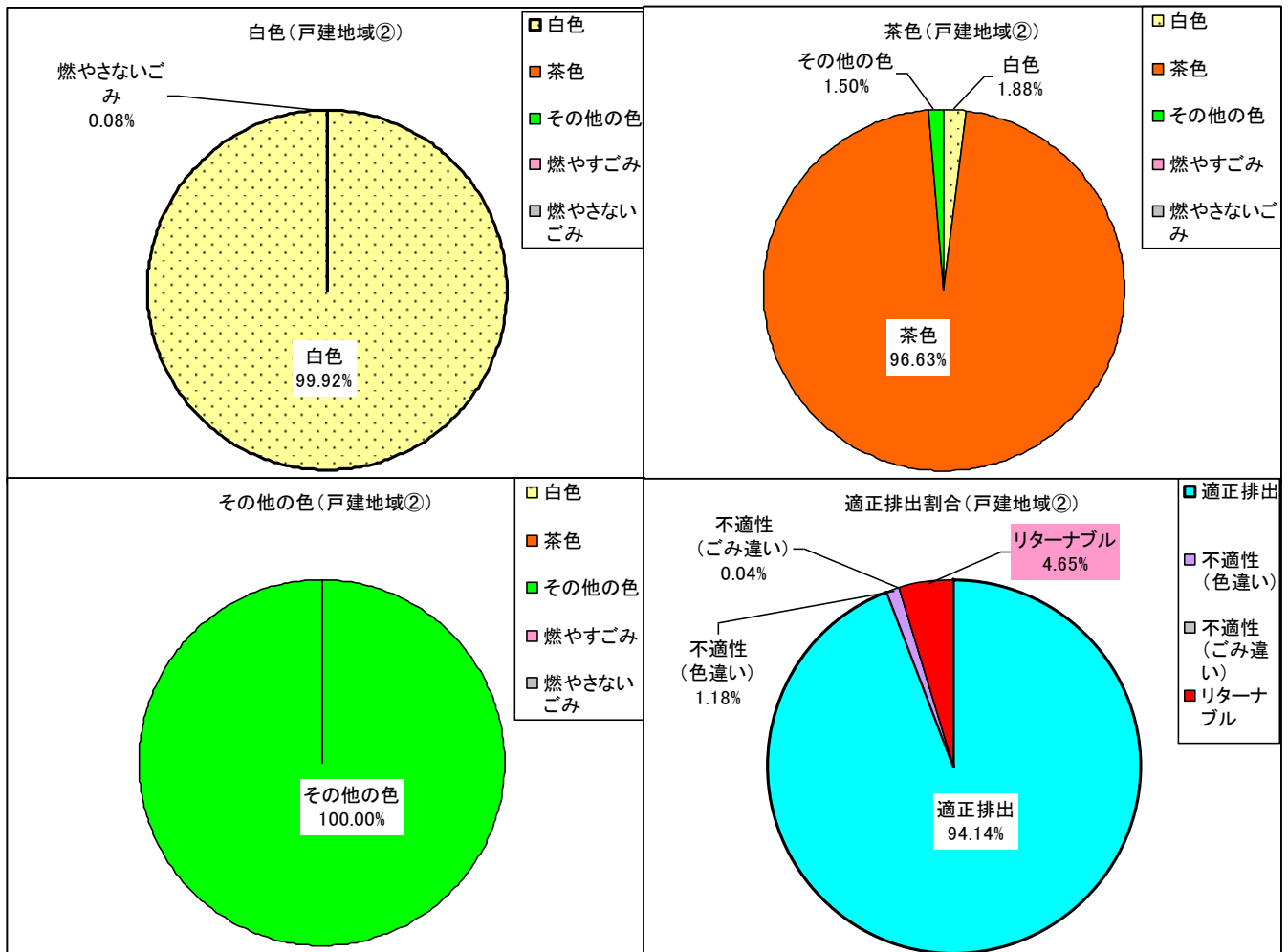


図 1-5 ビンの調査地域別の重量構成比(%) - 戸建地域②

集合住宅地域のビンの重量構成比を図 1-6 に示します。

集合住宅地域は、ビンの色別に無色は 96.78%と高い割合でしたが、茶色とその他がそれぞれ約 80%の 78.52%、81.96%でした。

この地域の特徴は、無色は、茶色とその他の色違いがわずかに(約 1~2%)混入していました。茶色は、その他の色が約 16%、無色が約 5%混入していました。その他の色は、無色が約 14%、茶色が約 3%混入していました。

図 1-6 右下のグラフより、ビン全体で見ると、リターナブルビンを含めた適正排出は 90.49%、不適正(色違い)が 8.86%、不適正(ごみ違い)が 1%以下でした。資源化の観点からみたリターナブルビンの排出割合は全体の 5.40%でした。

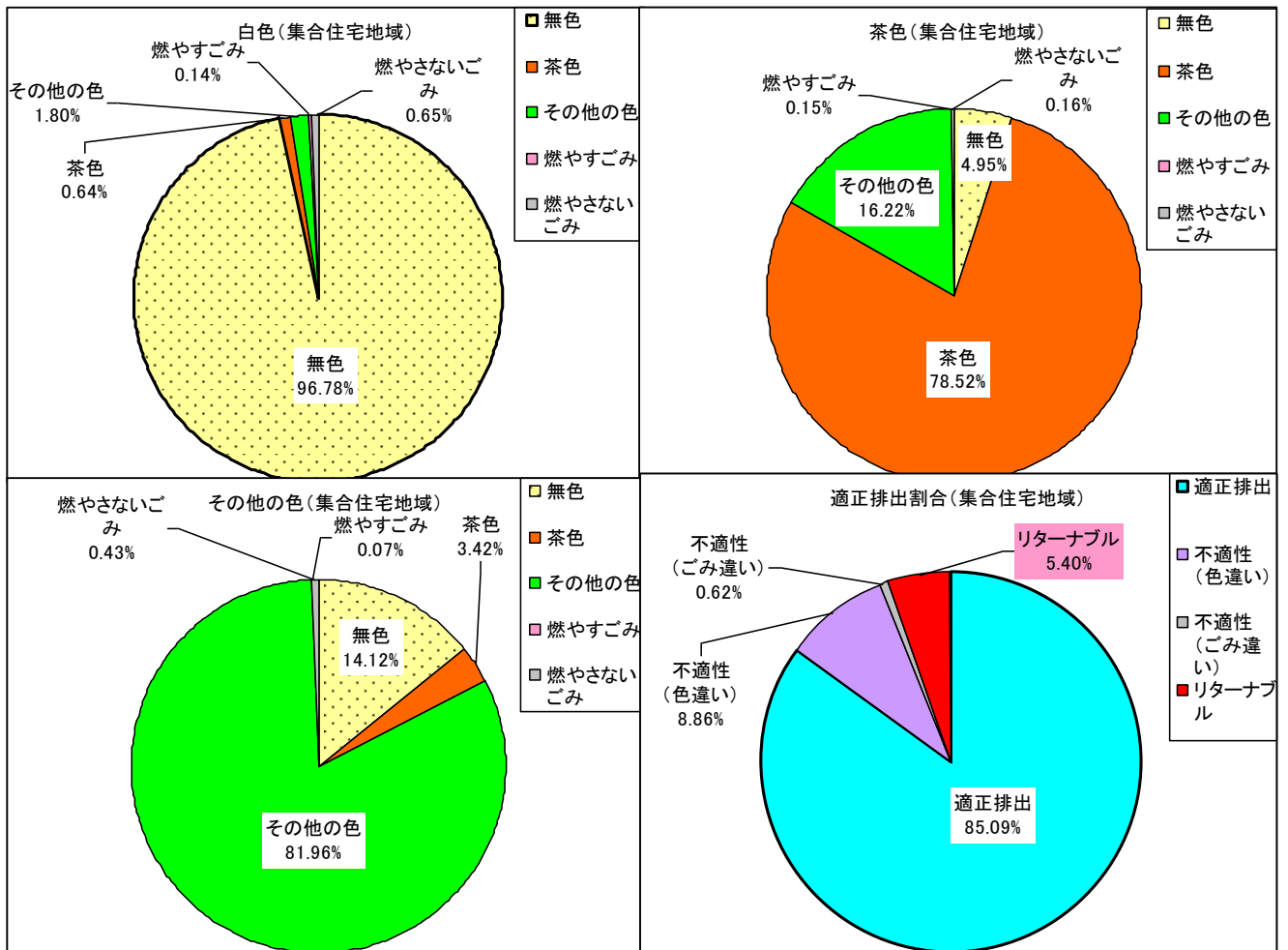


図 1-6 ビンの調査地域別の重量構成比(%) - 集合住宅地域

中心市街地域のビンの重量構成比を図 1-7 に示します。

中心市街地域のビンは、ビンの色別に無色が 95.47%、茶色が 83.89%、その他の色が 90.54%で
した。

この地域の特徴は、ビンの色別に無色は約 96%と高い割合でしたが、茶色とその他の色が約 1%混
入し、燃やさないごみも約 2%混入していました。茶色は、その他の色が約 12%、無色が約 1%混入し、
燃やさないごみも約 3%混入していました。その他の色は、無色が約 6%、茶色が約 2%混入していま
した。

図 1-7 右下のグラフより、ビン全体で見ると、適正排出はリターナブルビンと合わせて 92.02%、不適
正(色違い)が 5.65%、不適正(ごみ違い)が 2.33%でした。資源化の観点からみたリターナブルびん
の排出割合は全体の 3.69%でした。

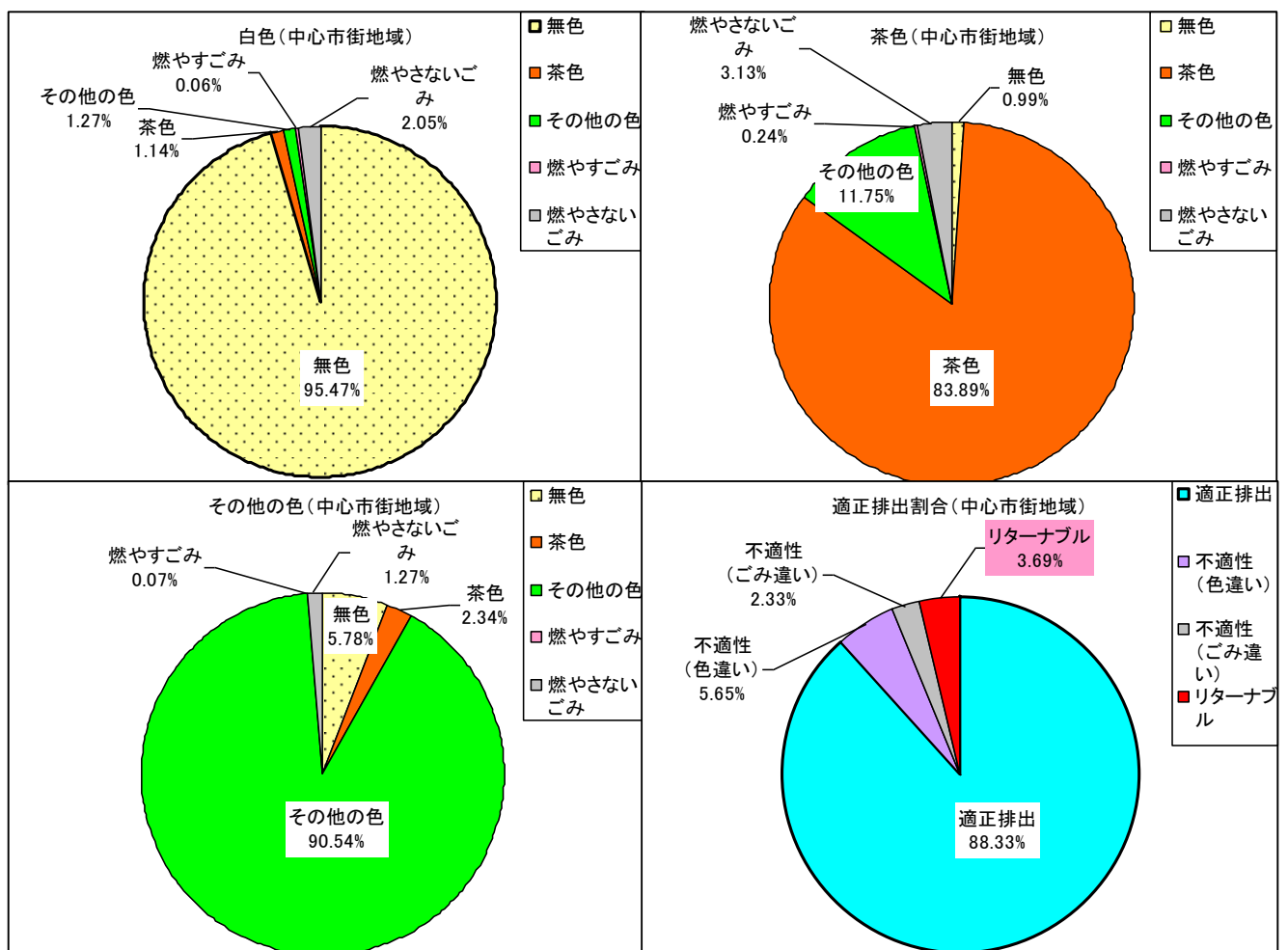


図 1-7 ビンの調査地域別の重量構成比(%) - 中心市街地域

農業地域のビンの重量構成比を図 1-8 に示します。

農業地域のビンは、ビンの色別に無色が 94.87%でしたが、茶色とその他の色は 100%と色違いの混入はありませんでした。

この地域の特徴は、無色は約 95%と高い割合でしたが、茶色が約 5%混入していました。

図 1-8 右下のグラフより、ビン全体で見ると、適正排出はリターナブルビンと合わせて 96.98%でしたが、不適正(色違い)は 3.02%でした。資源化の観点からみたりターナブルびんの排出割合は 13.50%でした。

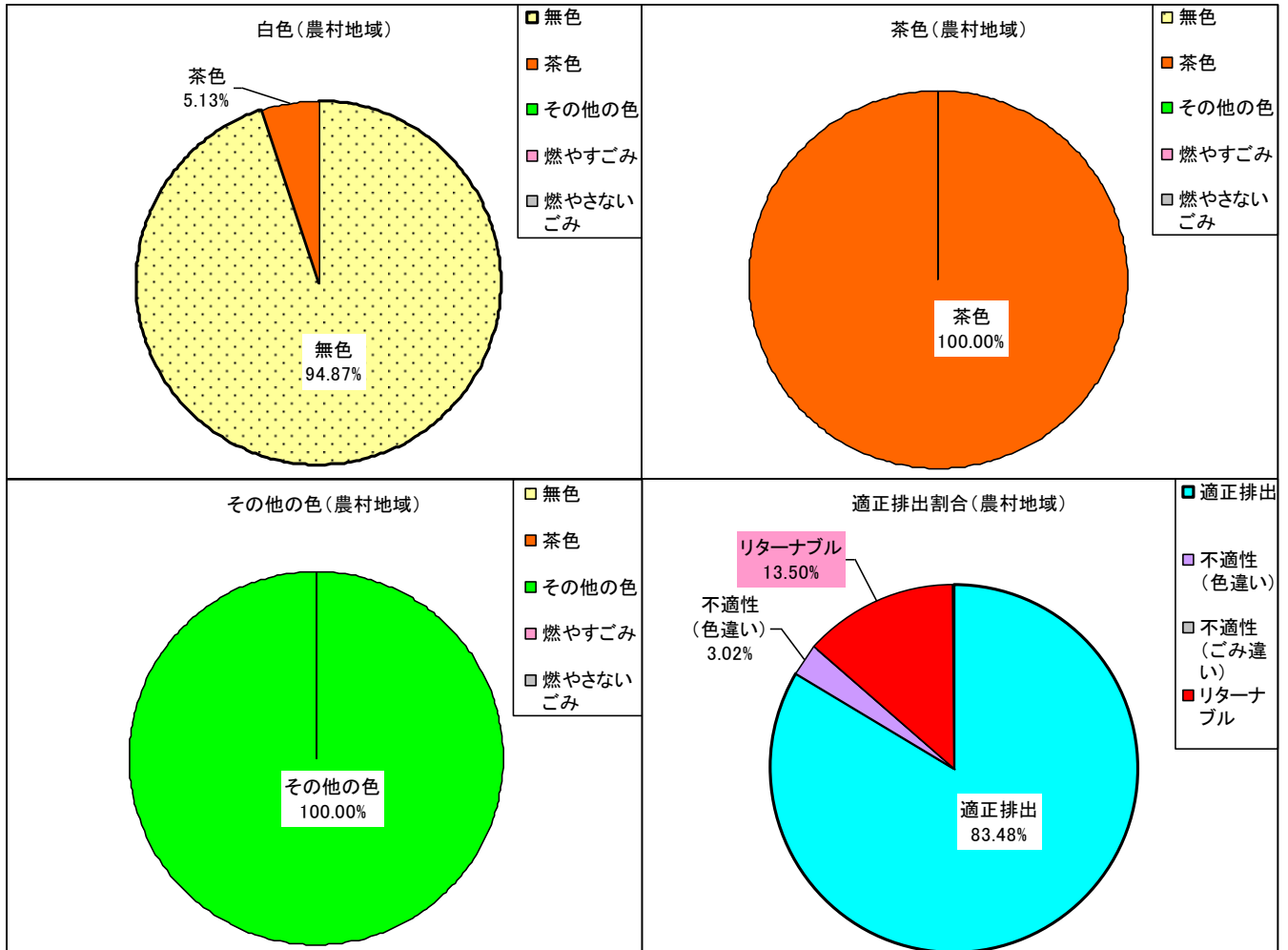


図 1-8 ビンの調査地域別の重量構成比(%) - 農村地域

ビン調査結果より、各調査地域におけるリターナブルビンの排出割合を表 1-4 に示します。

ビンの色別の分別協力度は、無色が 94.19%～99.92%であり、人口に応じた加重平均が 97.20%でした。

茶色は、78.52%～100.00%、加重平均が90.34%であり、その他の色は、81.96%～100%、加重平均が 95.85%でした。

全体の分別協力度は、78.52%～100.00%であり、集合住宅地域や中心市街地域では茶色やその他の色の分別協力度が他の地域より低く、最大で約 21 ポイントの地域差が認められました。

リターナブルビンの割合は、農村地域が最も高く 13.50%でしたが、全体を見ると人口割合に応じた加重平均では 5.04%となりました。

表 1-4 ビンの調査結果とリターナブルビンの排出割合

調査地域	分別協力度 (%)			リターナブルビン (%)
	無色	茶色	その他	
戸建①	94.19	90.74	100.00	6.56
戸建②	99.92	96.63	100.00	4.65
集合	96.78	78.52	81.96	5.40
中心	95.47	83.89	90.54	3.69
農村	94.87	100.00	100.00	13.50
全体※ ¹	96.24	89.95	94.50	6.76
全体※ ² (加重平均)	97.20	90.34	95.85	5.04

※1:全体値は各地域の算術平均

※2:人口割合に応じた加重平均

1)-5 大型ごみの特性

戸建地域①は、全 14 ステーション(以下「St」と示す)で行い、各 St の調査結果を図 1-9 に示します。戸建地域①を全体で見ると、家具類の排出された St は 8 カ所あり、割合が約 50%以上を占める St は 4 カ所でした。

電気製品が排出された St は、4 カ所あり、この割合が約 40%以上を占める St は、St.8 のみ 1 カ所でした。

自転車が排出された St は、ありませんでした。

布団・毛布・敷物類が排出された St は、9 カ所ありました。割合が約 35%以上を占める St は 6 カ所ありました。

趣味用品が排出された St は、12 カ所ありました。割合が約 40%以上を占める St は、4 カ所でした。

木の枝が排出された St は、7 カ所ありました。この割合が約 50%以上を占める St は 3 カ所ありました。

大型ごみ以外の不適正排出があった St は 3 カ所あり、その割合は 5.46%~15.12%でした。

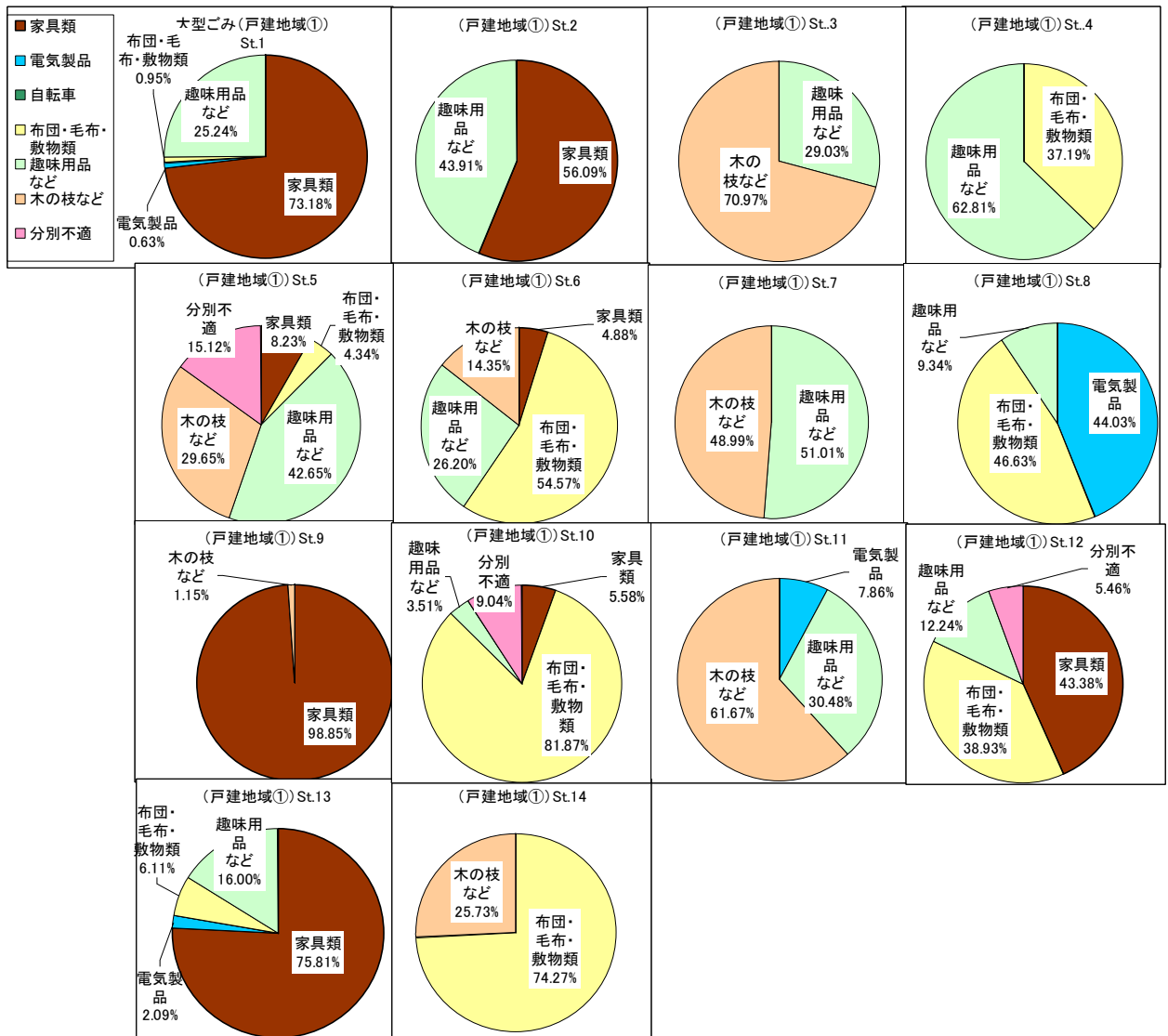


図 1-9 大型ごみの調査地域別の重量構成比(%) - 戸建地域①

戸建地域①の大型ごみのうち、リサイクル可能な重量割合を図 1-10 に示します。
 リサイクル可能を含む適正排出 100%の St は、全 14St のうち 11St でした。
 リサイクル可能な割合は、12.78%～95.70%でした。

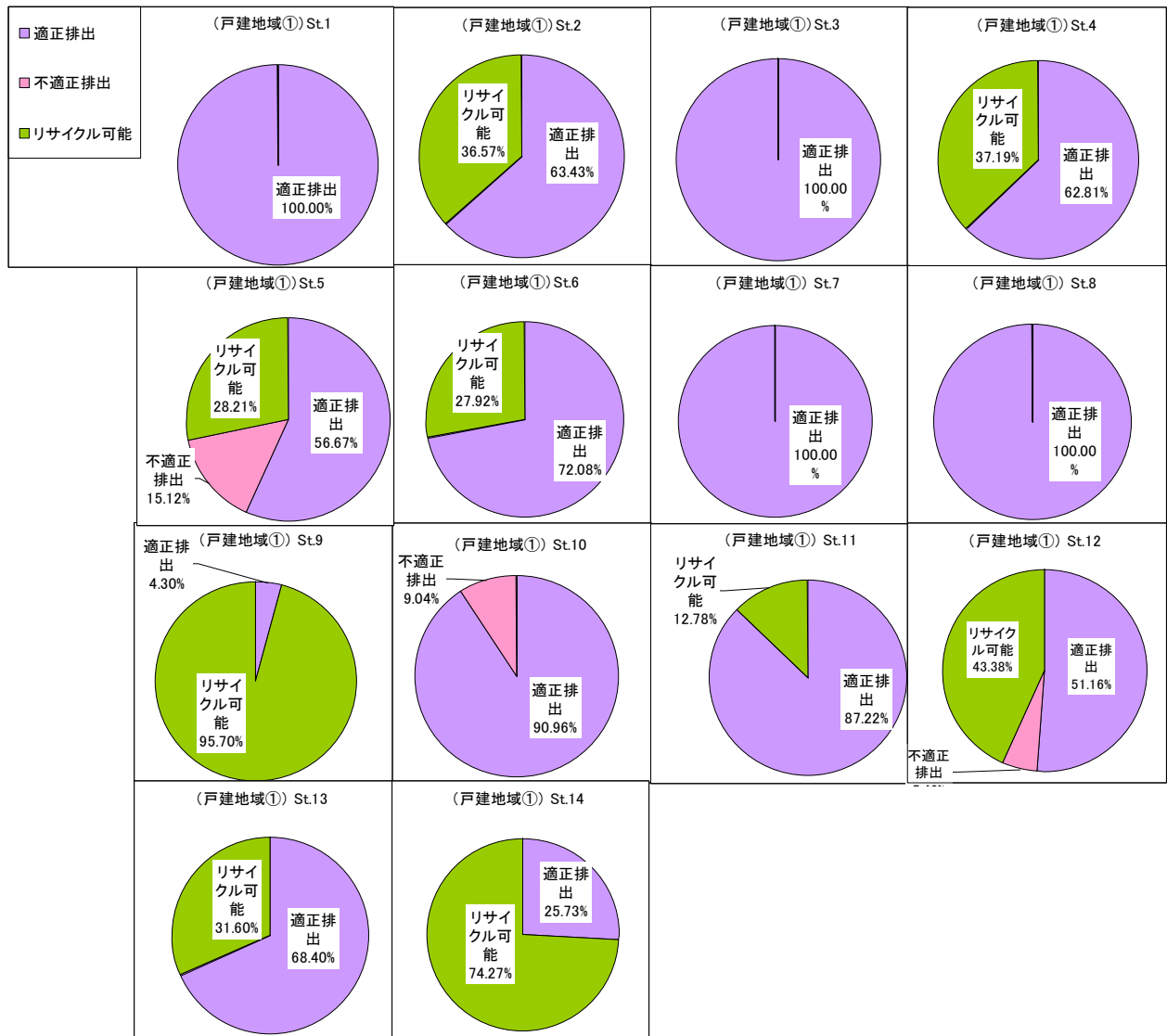


図 1-10 大型ごみのうちリサイクル可能な重量割合-戸建地域①

戸建地域②の大型ごみは、全 19St で行い、調査結果を図 1-11 に示します。対象ごみが排出されていない St は、St.17~St.19 の計 3 カ所でした。

戸建地域②を全体で見ると、家具類の排出された St は、St.3 のみ 1 カ所でした。

電気製品が排出された St は、St.2 と St.10 のみの 2 カ所でした。

自転車が排出された St は、St.5 のみ 1 カ所でした。

布団・毛布・敷物類が排出された St は、8 カ所ありました。この割合が約 40%を占める St は 4 カ所ありました。

趣味用品が排出された St は、15 カ所ありました。この割合が約 50%以上を占める St は 10 カ所ありました。

木の枝が排出された St は、4 カ所ありました。この割合が約 90%以上を占める St は 2 カ所ありました。大型ごみ以外の不適正排出があった St は 6 カ所あり、その割合は 0.33%~29.89%でした。

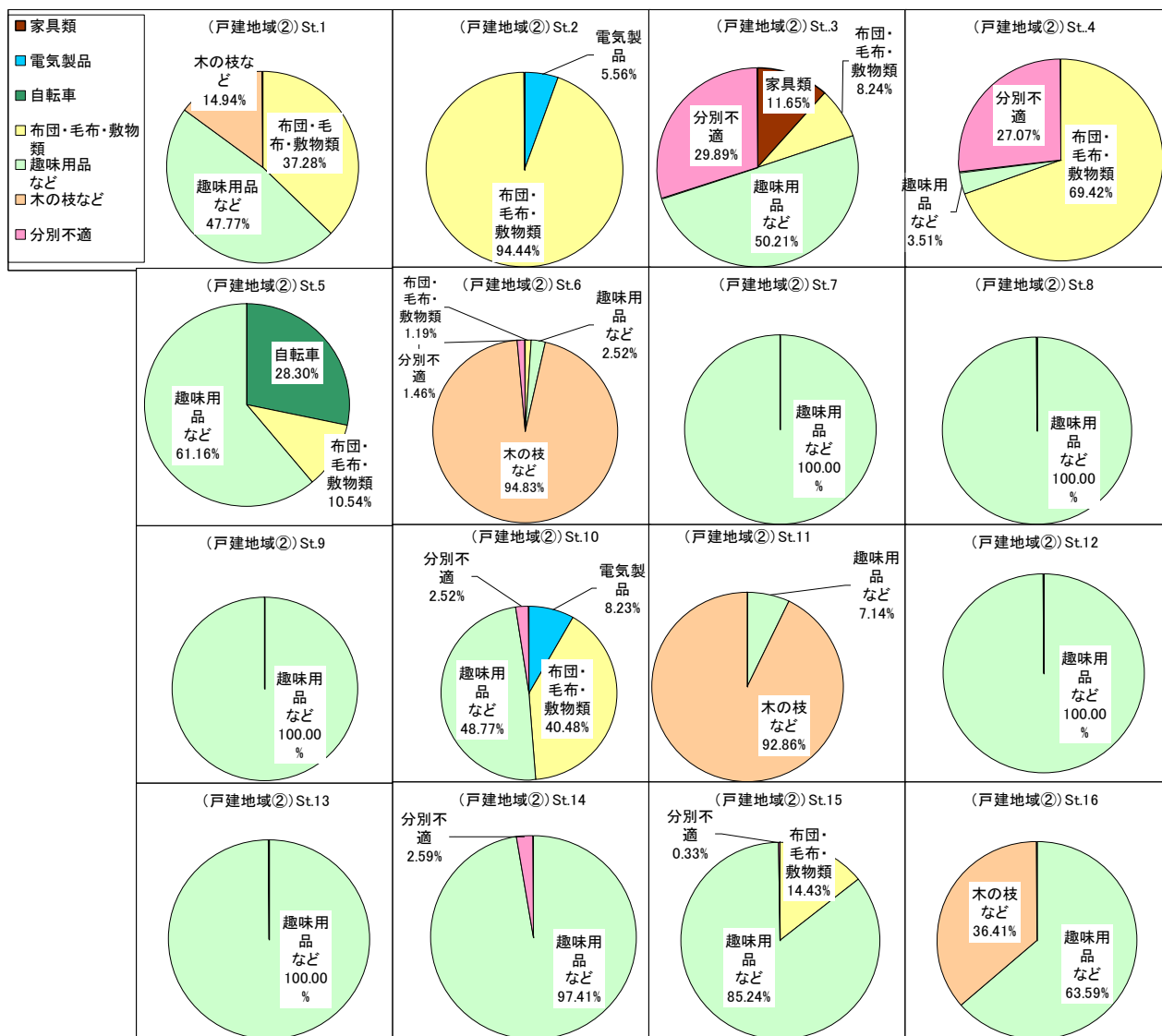


図 1-11 大型ごみの調査地域別の重量構成比(%)-戸建地域②

戸建地域②の大型ごみのうち、リサイクル可能な重量割合を図 1-12 に示します。

対象ごみが排出されていない St.17, St.18, St.19 を除いた 16St のうち、リサイクル可能を含む適正排出 100%の St は、10St でした。

リサイクル可能な割合は、4.20%が最も低く、最大で適正排出された大型ごみの全量である 100% でした。

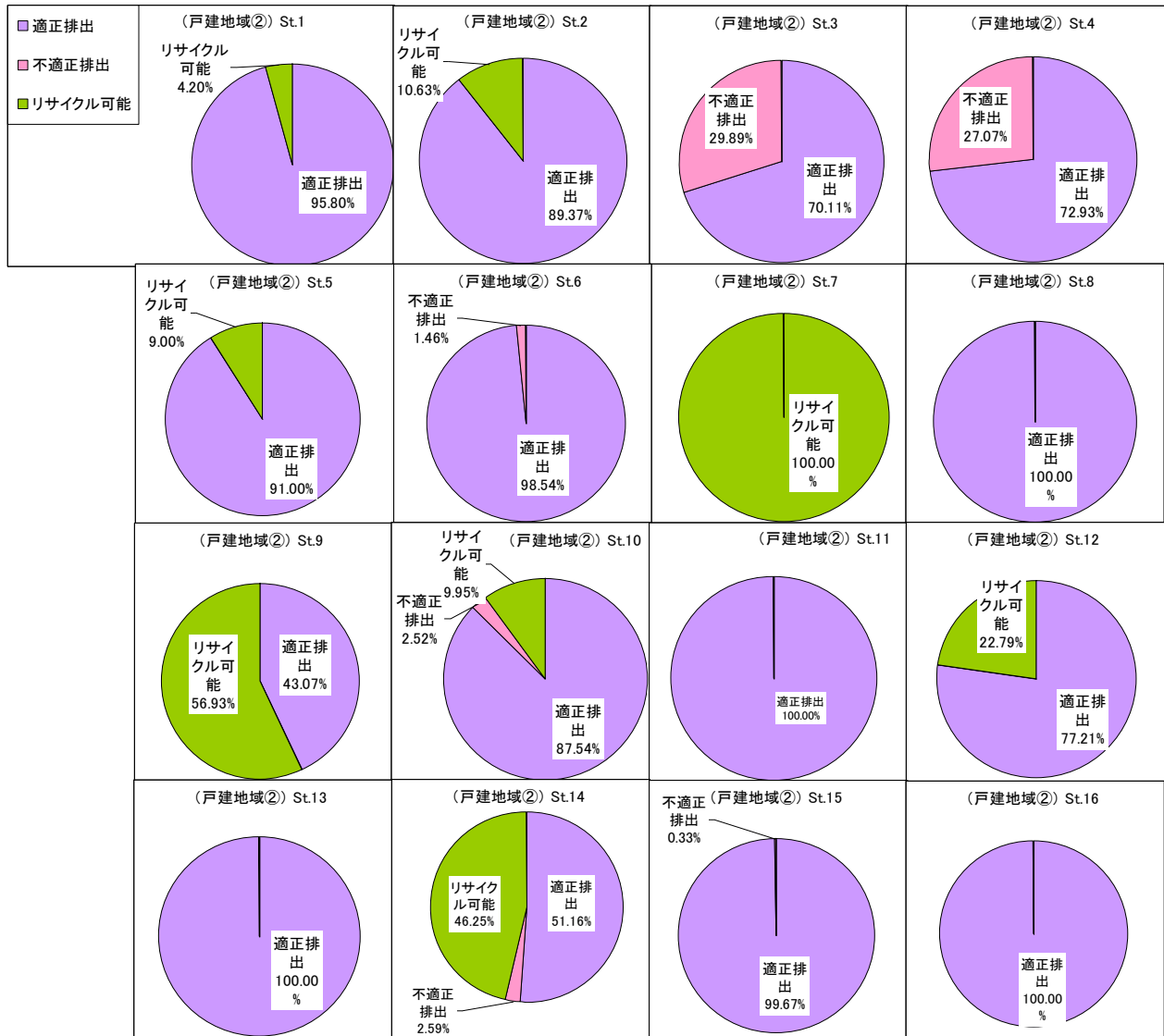


図 1-12 大型ごみのうちリサイクル可能な重量割合-戸建地域②

集合住宅地域の大型ごみは、4カ所全てのStで行い、調査結果を図1-13に示します。

集合住宅地域を全体で見ると、家具類は全てのStで排出されていました。この割合が約40%を超えるStは、St.1を除いた3カ所でした。

電気製品は、全てのStで排出されていました。この割合が約5%を超えるStは、St.1とSt.4の2カ所あり、その割合はそれぞれ6.45%、12.94%でした。

自転車は、St.4のみ排出されていました。

布団・毛布・敷物類は、全てのStで排出されていました。この割合が約40%を占めるStは、St.1とSt.2の2カ所ありました。

趣味用品は、全てのStで排出されており、この割合はいずれのStでも約10%を超えていました。

木の枝が排出されたStは、St.2とSt.4の2カ所ありました。この割合は、いずれのStでも10%以下でした。

大型ごみ以外の不適正排出があったStはSt.1とSt.3であり、その割合は2.13%、16.22%でした。

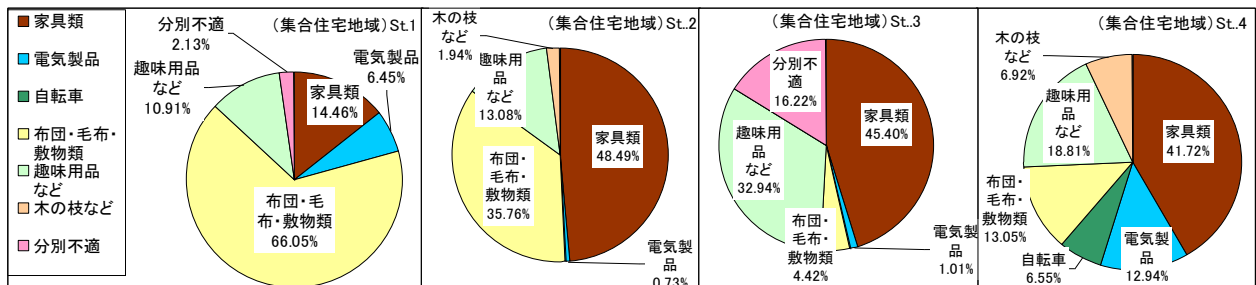


図 1-13 大型ごみの調査地域別の重量構成比(%) - 集合住宅地域

集合住宅地域の大型ごみのうち、リサイクル可能な重量割合を図1-14に示します。

リサイクル可能を含む適正排出 100%のStは、全てのStのうちSt.2とSt.4の2カ所でした。

リサイクル可能な割合は、St.2を除いて30%以上を超えており36.03%~55.45%でした。

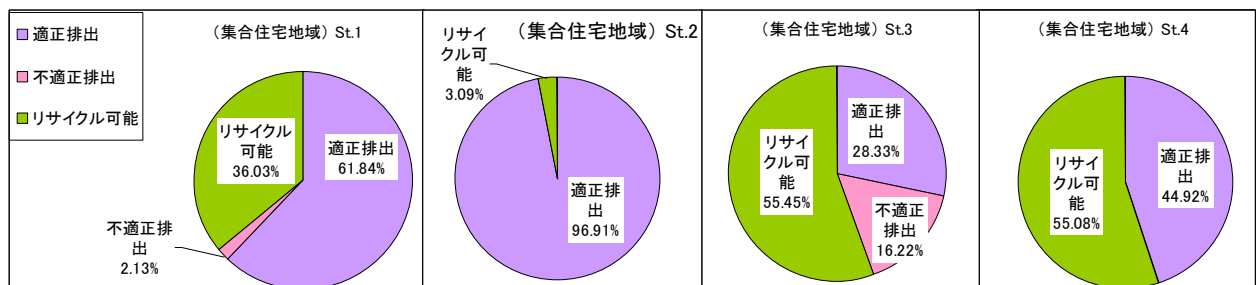


図 1-14 大型ごみのうちリサイクル可能な重量割合 - 集合住宅地域

中心市街地域の大型ごみは、全 11St で行い、調査結果を図 1-15 に示します。対象ごみが排出されていない St は、St.2, St.6, St.7 の計 3 カ所でした。

中心市街地域を全体で見ると、家具類の排出された St は、6 カ所でした。この割合が約 20%を超える St は、St.4 を除いた 5 カ所でした。その割合は 30.04%~51.68%でした。

電気製品は、5 カ所の St で排出されていました。その割合は 0.87%~17.35%でした。

自転車は、St.11 のみ排出されていました。

布団・毛布・敷物類は、7 カ所の St で排出されていました。この割合が 100%を占める St は、St.1 と St.3 の 2 ヶ所でした。その他の St は、St.4 を除き 20%を超えており 20.12%~36.83%でした。

趣味用品は、6 カ所の St で排出されていました。この割合はいずれの St でも 10%を超えており、14.23%~63.85%でした。

木の枝が排出された St は、St.4 のみでした。この割合は、42.73%でした。

大型ごみ以外の不適正排出があった St は 2 カ所あり、その割合は 8.62%、10.38%でした。

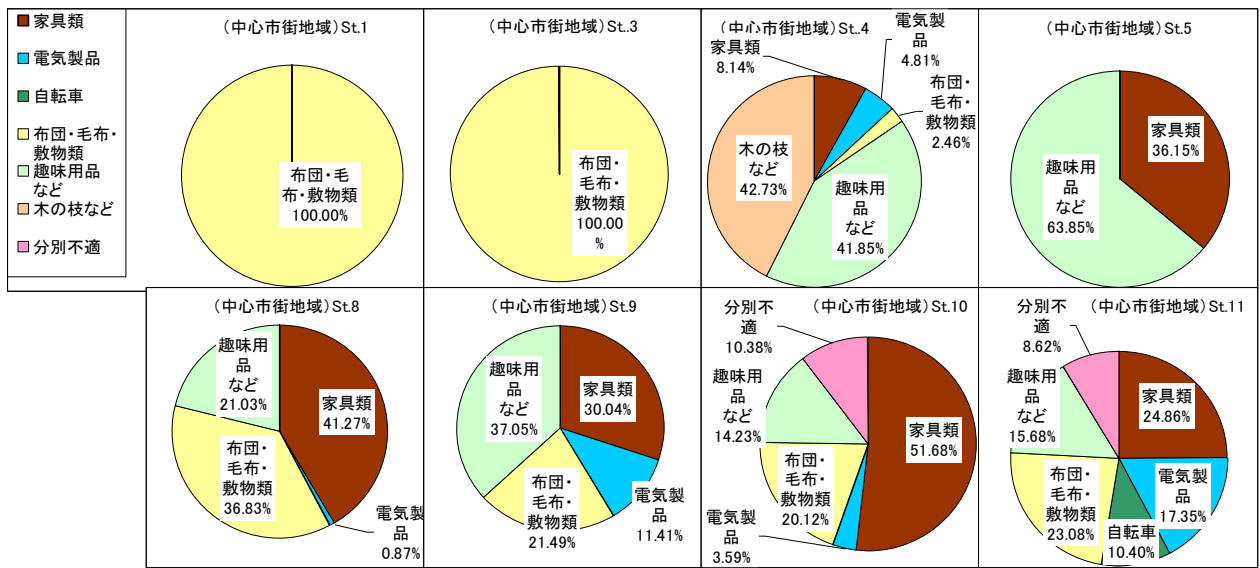


図 1-15 大型ごみの調査地域別の重量構成比(%) - 中心市街地域

中心市街地域の大型ごみのうち、リサイクル可能な重量割合を図 1-16 に示します。

リサイクル可能を含む適正排出 100%の St は、全 St のうち St.10 と St.11 を除いた 6 カ所でした。

リサイクル可能な割合は、3.05%~11.96%でした。

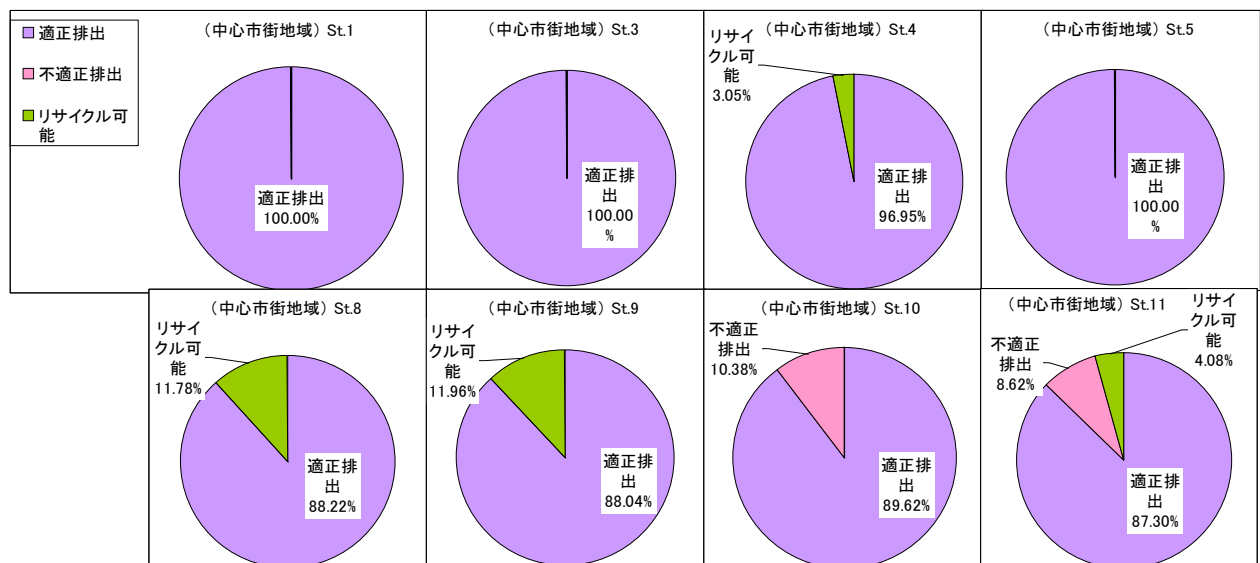


図 1-16 大型ごみのうちリサイクル可能な重量割合 - 中心市街地域

農村地域の大型ごみは、全 7St で行い、調査結果を図 1-17 に示しました。対象ごみが排出されていない St は、St.2, St.3, St.4, St.7 の計 4 カ所でした。

農村地域を全体で見ると、家具類は St.1 のみ 1 カ所で 14.07% 排出されていました。

電気製品は、St.1 のみ 1 カ所で 33.44% 排出されていました。

自転車は、排出されていませんでした。

布団・毛布・敷物類は、St.1 のみ 1 カ所で 12.08% 排出されていました。

趣味用品は、全ての St で排出されており、この割合はいずれの St でも 40%を超えており、40.41%～100%でした。

木の枝は、排出されていませんでした。

大型ごみ以外の不適正排出があった St は St.5 のみ、その割合は 13.99%でした。

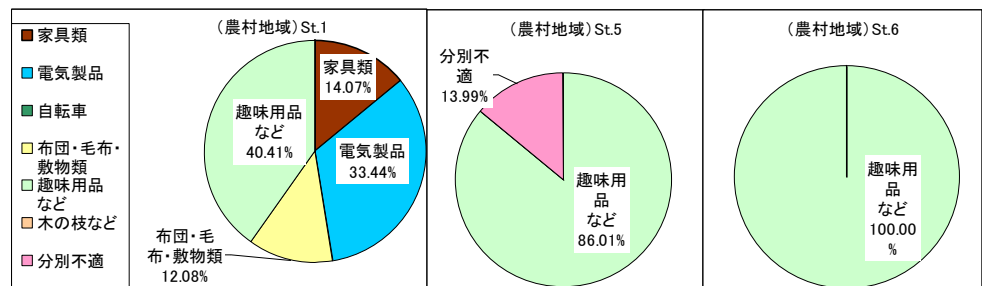


図 1-17 大型ごみの調査地域別の重量構成比(%) - 農村地域

大型ごみのうち、リサイクル可能な重量割合を図 1-18 に示します。

農村地域の大型リサイクル可能を含む適正排出 100%の St は、全ての St のうち St.1 と St.6 の 2 カ所でした。

リサイクル可能な割合は、全ての St のうち St.1 のみで 1.59%でした。

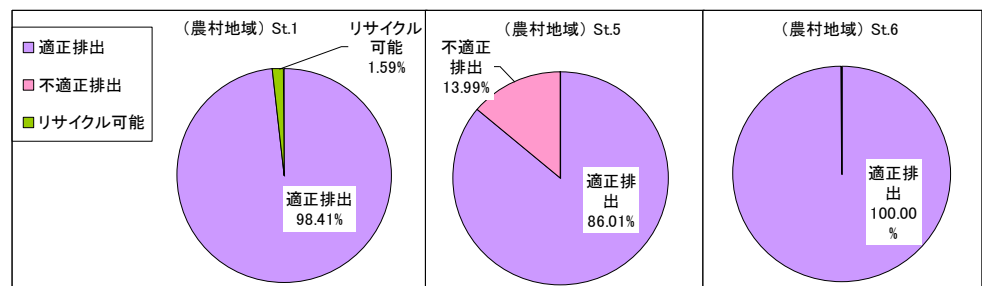


図 1-18 大型ごみのうちリサイクル可能な重量割合 - 農村地域

大型ごみ調査より、調査地域ごとの分別協力度と大型ごみ中のリサイクル可能なごみの割合を表1-5に示します。

分別協力度は、93.32%～97.88%と高い水準であり、地域差は大きくありませんでした。また、加重平均は96.46%でした。

大型ごみ中のリサイクル可能なごみは、集合住宅が最も多くその割合は37.41%でした。その他の地域は0.53%～27.69%でした。また、人口割合に応じた加重平均は19.28%となりました。

表 1-5 大型ごみの調査結果とリサイクル可能な重量割合

調査地域	分別協力度※ ¹ (%)	大型ごみ中の リサイクル可能なごみ の割合(%)
戸建①	97.88	27.69
戸建②	96.01	16.23
集合	93.32	37.41
中心	97.62	3.86
農村	95.34	0.53
全体※ ²	96.03	17.14
全体※ ³ (加重平均)	96.46	19.28

※1:ごみ調査は各地域ごとに異なる St 数で行い、重量割合から平均値を算出

※2:全体値は各地域の算出平均

※3:人口割合に応じた加重平均

5つの調査地域の分別協力度を以下に比較しました。

- ・ 戸建地域①は、家具類、布団・毛布・敷物類、趣味用品および木の枝が多く、電気製品や自転車が少ない。大型ごみのうち、リサイクル可能な重量割合は約30%であった。
不適正排出として紙類(段ボール)や野球用具(ヘルメット、スパイク)などがあつた。
- ・ 戸建地域②は、趣味用品および木の枝が多く、電気製品や自転車が少ない。大型ごみのうち、リサイクル可能な重量割合は約20%であった。
不適正排出として燃やさないごみや紙類(段ボール)などがあつた。
- ・ 集合住宅地域は、家具類、布団・毛布・敷物類が多く、自転車が少ない。大型ごみのうち、リサイクル可能な重量割合は地域で最も高く約40%であった。
不適正排出として燃やさないごみや紙類(段ボール)などがあつた。
- ・ 中心市街地域は、家具類、布団・毛布・敷物類が多かつた。大型ごみのうち、リサイクル可能な重量割合は約4%であつた。
不適正排出として燃やさないごみや燃やすごみなどがあつた。
- ・ 農村地域は、趣味用品および電気製品が多かつた。大型ごみのうち、リサイクル可能な重量割合は地域で最も低く1%以下であつた。